

ACOLS ニュース No.133

オリンパス共焦点レーザー顕微鏡セミナー・講習会開催のお知らせ

平素よりお世話になっております。

このたび、オリンパス共焦点レーザー顕微鏡 FV-1000D につきましてアプリケーション・使用方法などに関するセミナー・講習会を開催いたします。詳細は以下の記載および別葉の資料をご覧ください。

セミナー

日時：2012 年 7 月 26 日（木） 18 時～19 時

場所：霞総合研究棟 701 室（定員 36 名）

講師：オリンパス株式会社 安部 隆史氏

セミナーへの参加をご希望の方は、7 月 20 日（金）12 時までにお名前、研究室名、連絡先（電話番号、メールアドレス）をメールにて生命科学機器分析部（acols@hiroshima-u.ac.jp）へご連絡ください。件名を「**オリンパスセミナー参加申込**」としてくださいますよう、お願いいたします。

なお、会場の都合により参加人数の調整を行う可能性がありますのでご了承ください。

講習会（画像取得体感）

日時：2012 年 7 月 27 日（金） 時間枠 1) 9 時～12 時：一般的な画像取得、2) 13 時～15 時：FRET
3) 15 時～17 時：光刺激

場所：霞総合研究棟 116 室

講師：オリンパス株式会社 安部 隆史氏

講習会への参加をご希望の方は、7 月 20 日（金）12 時までにお名前、研究室名、連絡先（電話番号、メールアドレス）、参加ご希望の時間枠をメールにて生命科学機器分析部（acols@hiroshima-u.ac.jp）へご連絡ください。件名を「**オリンパス講習会参加申込**」としてくださいますよう、お願いいたします。

上記の時間枠の設定で募集いたしますが、申し込み状況によりましては時間枠の短縮・延長および移動、会場の都合による参加人数の調整を可能性がありますのでご了承ください。

なお、当日は画像取得用のサンプルをお持ちくださいますようお願いいたします。

<連絡先>

自然科学研究支援開発センター 生命科学実験部門 生命科学機器分析部

霞総合研究棟 122 号室（担当：柿村）

内線：6844 E-mail：acols@hiroshima-u.ac.jp

追記：本施設を少しでもご利用いただき作成された論文には、「謝辞」に当施設利用の旨を記していただきたいと存じます（謝辞例文 This work was carried out at the Analysis Center of Life Science, Natural Science Center for Basic Research and Development, Hiroshima University.）。さらに、実績として役立たせていただくため、別刷 1 部（コピー、pdf ファイルでも結構です）を本施設にご提供いただければ幸いです。

がん研究・神経研究におけるイメージング技術の進展

近年の蛍光物質の開発や顕微鏡の進化により、従来では困難であった数々の生命現象を観察することができるようになってきた。特に共焦点顕微鏡や多光子励起レーザー走査型顕微鏡は、生命現象をリアルタイムかつ三次元的にとらえることができる優れた手法である。本セミナーでは1)がんの分野において、臨床応用も視野にいれた最新のデータを、2)新規技術を用いた神経組織を対象とした深部観察のデータを紹介する。

1) 分子標的薬開発における、ADCC(細胞依存性細胞傷害)・CDC(補体依存性細胞傷害)のリアルタイムイメージング。

抗体医薬がターゲットの腫瘍細胞に対してどのように作用しているのかを可視化した。作用機序をリアルタイムで観察することにより薬効の評価などへの応用が考えられる。また、臨床サンプルを用いることによる、治療戦略への貢献の可能性もあわせて示す。その他にも、抗体医薬を対象にしたイメージングの実例を紹介する。

2) 多光子励起レーザー走査型顕微鏡や透明化試薬による深部観察。

神経組織を対象に、多光子励起レーザー走査型顕微鏡による深部観察の実データを示す。特に、近年開発された透明化試薬「SCALEVIEW-A2」を用いた、最大8mmに達する深部観察についても紹介し、将来の展望を示す。

広島大学 がん研究セミナー

～日進月歩で進むイメージング技術のがんや免疫研究への応用～

日時:2012年7月26日(木) 18時～19時

場所:霞総合研究棟 701室

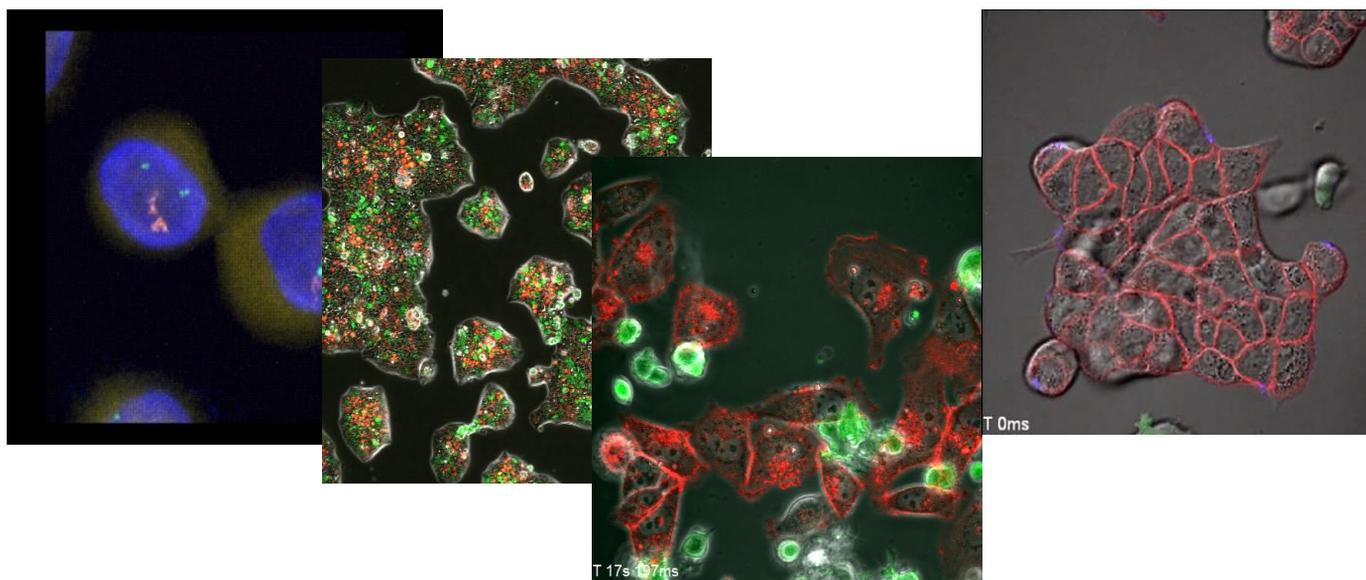
ご希望者には翌日、実機(霞総合研究棟116室:FV-1000D)を使用した画像取得体験日を設定します。ご自身のサンプルでデータ取得可能です。

対象:がんや免疫研究に興味のある方

レーザー顕微鏡できれいな画像をとりたい

現在研究中の大学院生 など.

演者:安部 隆史氏 (オリンパス株式会社)



顕微鏡で何がみえるのか？

生きている細胞はどうみえるのか？

実際の研究にどう使えばいいのか？

がん研究・神経研究におけるイメージング技術の進展

近年の蛍光物質の開発や顕微鏡の進化により、従来では困難であった数々の生命現象を観察することができるようになってきた。特に共焦点顕微鏡や多光子励起レーザー走査型顕微鏡は、生命現象をリアルタイムかつ三次元的にとらえることができる優れた手法である。

本セミナーでは1)がんの分野において臨床応用も視野にいれた最新のデータを、2)新規技術を用いた神経組織を対象とした深部観察のデータを紹介する。



お問い合わせ先:自然科学研究支援開発センター 生命科学機器分析部

担当:柿村(内線:6844、mail:acols@hiroshima-u.ac.jp)

共催:大塚器械株式会社 担当:中原(電話 090-7974-0888、mail:nakahara@ootsuka.co.jp)